

東北師範大学・本科におけるカリキュラム計画の改訂の基本的な考え方

(東北師範大学本科教育指導カリキュラム計画表

東北師範大学教員資格教育カリキュラム表 付)

(出典 東北師範大学 『東北師範大学本科教育課程計画』(2005年)

カリキュラム計画は、国家の教育方針と学校の養成目標に基づいて制定される学校の将来数年の教育、教授にかかわる基本的な文書である。それは、学校運営理念の表れで、養成目標を実現するための総体的な設計図と実施法案であり、学校全体のカリキュラム設置と教授全過程を統括、管理する根拠でもある。学校の状況と特徴に基づき、国内外の高等教育改革の経験と研究成果を参考とし、学生の発展需要、経済と社会の発展需要を満足させるカリキュラム計画は高等教育機関が生存及び発展できる根元である。新世紀の経済、科学技術と社会発展、特に地域経済と社会発展が求める各分野の高級人材を養成するため、また《東北師範大学“十五”発展規則》の執行及び「研究型、総合型」の性質を有する師範大学本科人材養成体系構築のため、本校の本科カリキュラム計画の改訂に関して下記の原則を示す。

一、指導理念

1. カリキュラム計画は、“教育は現代化、世界、未来に顔を向ける”理念と“国内一流、国際的に知名度が高い研究型、総合型師範大学づくり”という目標の達成及び本校の学校経営に当たってのメリット、基礎教育のために貢献する特色などを十分に配慮しなければならない。

2. カリキュラム計画は、学生の主体的な学習を促進させるという基本的な考え方に基づき、多様的で、体系的なカリキュラムシステムを作らなくてはならない。学生が自ら“専攻、カリキュラム、教員、学習プロセスなどを選ぶ資料”を提供し、学生の主体性と積極性を発揮させなければならない。

3. カリキュラム計画は、“科目間の融通性、堅固な基礎、精通した専門、多面的な進路”などの養成理念をもとに、専門人材育成と総合素質向上の両者の関係をうまく処理し、共通教育と専門教育がお互い結びつくカリキュラムづくりを徹底しなければならない。専門を精密化する同時に基礎教育を強化し、専門科目間を弾力化して各学科間の融合を促進しなければならない。そして、“文系間の交錯”、“理系間の交錯”“文系と理系の交錯”とい

う原則を維持し、学生の生涯学習と発展に堅固な基盤を作らなくてはならない。

4. カリキュラム計画は、素質教育に基づき、「創新教育」を中核とする基本理念の表れでなければならない。本科教育と大学院教育の疎通、理論的な学習と実践的な活動の合理的な組み合わせ、授業内学習と授業外学習一体化などの養成システムの構築をねらい、探求性学習のための空間を作り上げなければならない。そして、学生の創造精神と実践能力の育成、さらに学生の総合素質能力の全面的な向上をはからなければならない。

5. カリキュラム計画は、共通性と個性、統一性と多様性、弾力性が組み合う原則を維持しなければならない。専門性のある人材を養成する目標に達すると同時に個性の尊重、多様化と特色のある教育を展開し、一定の特技を有しながらも多様化する社会の発展需要に応えられる複合型の高度な専門性を有する人材を育成しなければならない。

6. カリキュラム計画は、本校の“研究型、総合型師範大学”という位置づけに基づき、師範型専攻と非師範型専攻の境界線の疎通をはかりながら、両者のメリットを生かさなければならない。

二、養成目標とねらい

(一) 養成目標

見識、能力、責任感のある、主体的に勉強できる学生養成のための指導を展開する。しっかりした理想を持ち、徳・知・体・美を全面的に発達し、堅固な基礎と創造精神及び実践能力の持ち主としての中学校教員を養成するとともに、その他の複合型の高度な専門性を有する人材の育成を目指す。

(二) 養成のねらい

東北師範大学のあらゆる専攻の学生は次のような養成のねらいに達しなければならない。

1. 公民としての基本意識と道徳教養を有する。
2. 一つの専攻を熟知し、当領域の基本知識と探求方法を上手に運用できると同時に広い知識と視野を有する。相違の専攻、領域間の相関性を理解し、各種の情報、知識に対し空間、文化などを越えた、多角的分析を行う意識と視野を有する。
3. 母国語以外に、少なくとも一つの外国語を上手に活用し、より良い意思疎通とコミュニケーション能力を有する。
4. 多面的手段と方法で情報の獲得、解釈、評価、管理さらに情報を生かす能力を有する。

5. 多面的手段と方法を総合的に運用し、問題の所在、分析、解決、特に創造的問題解決の能力を有する。
6. 社会変化に応じられる能力を有する。
7. 協力と調和のとれた能力を有する。
8. 健康意識を持ち、心身健康促進のための手段と方法を身に付け、健康な身体と良好な心を有する。

教職を希望する者に対し、上記のねらい以外に、現代教育理念の確立、専門に集中する精神の育成及び教育の基本知識、理論と技能を身につけ、教育実践能力と創造教育の意識、能力を求める。

各専攻は以上で述べた目標とねらいに基づき、本専攻にふさわしい養成目標とねらいを制定する。

三、カリキュラムの構成と科目設置

東北師範大学本科教育カリキュラムは、共通教育科目、専門教育科目、教員資格教育科目、自由選択科目の大きく四つの部分になっている。

(一) 共通教育科目

共通教育科目は専門教育及び本科教育全体の基礎になる科目で、その目的は主に学生の大学時代の学習及び生涯学習のために必要な基礎知識を与えると同時に学生の専攻の選択と学習の計画立てに役立つ機能を果たす。

共通教育科目は必修科目（専門教育科目の中の必修科目と区別するため、以下“通修科目”と呼ぶ）と選択科目（専門教育科目の中の選択科目と区別するため、以下“通選科目”と呼ぶ）で構成され、学生には 50 単位修得することを求めている。その中で、通修科目が 5 分の 4（約 40 単位）、通選科目が 5 分の 1（約 10 単位）を占めている。

通修科目は“両課”、交流と表現科目、健康体育と国防教育科目、数学と情報技術科目など大きく 4 つの部分に構成されている。主に学生の公民意識とマルクス主義理論教養を養うこと、健康と国防意識の向上及び大学時代を含む生涯にわたる学習に必須な基本能力を養うことを目的としている。通選科目は人文社会科学科目と自然科学科目の 2 つの部分に構成され、広い範囲で知識取得を望む共通教育科目の求めとし、学生の専攻の選択と学習計画立てに役立つ任務を果たしている。

1. “両課”（文系 13 単位、理系 11 単位）

“両課”は学生に公民教育とマルクス主義理論教育を与える主なコースで、国が規定した必修科目である。“きめ細かな指導で役立つ”原則に基づいて、授業内教育と授業外教育を実施している。そのため、科目ごとに授業内の理論的な学習と授業外の実践的な活動が設置されている。一部の内容は教員が授業で講義し、その他の内容は担当教員の計画のもとで学生が社会実践と自習を通じ、読書レポート、調査レポートと小論文を提出する形で行われる。

以上の指導理念に基づき、“思想道德教養”科目と“法律基礎”科目が各1単位、“マルクス主義哲学原理”が3単位、“マルクス主義政治経済学”、“毛沢東思想概論”、“鄧小平理論”と“3つの代表の重要思想概論”が各2単位を占めている。この5つの科目は全校の本科学生が必ず受けなければならない必修科目である。“現代世界経済と政治”科目は文系学生の必修科目で2単位を占めている。思想政治教育と経済学などの専攻については、“両課”の教学基本要求を前提に本専攻のカリキュラム設置を考えなければならない(以上の要求は国の現段階の規定を基準とする。その間もし変更がある場合、新しい規定を基準とする)。

2. 健康体育と国防教育科目 (6単位)

健康体育と国防教育科目は全校共通必修科目で、健康と体育科目と国防教育科目に分けている。

健康と体育科目は主に学生の健康意識の向上、身体の鍛えと健康を促進する手段及び方法を身に付けさせる目的で行われ、全部で4単位を占めている。2単位は自由選択制をとっている。すなわち、授業の時間は統一しなくて学生が自分のスケジュールに合わせ自由に選択する制度である。他の2単位は項目と授業時間の自由選択制である。学生は必ず毎週2時間に相当する授業と訓練を行わなければならない。評価は期末ごとに試験を受け、成績として記載し、合格者は1単位を修得できる。

国防教育科目は主に学生の国防意識を向上させることを目的としている。軍隊訓練と軍事理論教育の2つに分けられている。軍隊訓練科目は新入学学生教育と一緒にはじめの第1学期に設置されている。3週間にわたって、1単位を占めている。軍事理論教育はネット上での授業、学生の自習、教員の指導方式などで行われている。期末に評価を行い、合格者は1単位を修得できる。

3. 交流と表現科目 (14単位)

交流と表現科目は全校共通必修科目で、学生に言語(本国語と外国語)を使用し、はっきりした思考と表現及びコミュニケーション能力を形成させる目的で行われている。作文と外国語に分かれている。

作文科目は2単位を修得しなければならない。作文は、応用作文と専攻作文両方とも行うべきである。

外国語は12単位を修得しなければならない。学校側は新入生に外国語試験を受けさせ、

その成績と学生自身の選択に基づいてクラス編成及び授業を行っている。全国大学外国語4、6級試験及び校内外国語資格試験の合格者は一部の定められたカリキュラムの修得を免除される。その他、外国語の聞き、言い、読み、書き能力向上のための選択科目も設置している。

4. 数学と情報技術科目（文系7、理系9）

数学科目と情報技術科目で構成され、全校共通必修科目である。

数学科目は学生に論理的推理と抽象的思考に必要な基本概念と能力を育成させる目的で行われている。文系は最低4単位、理系は最低6単位を修得しなければならない。教学効果を高めるために分類、段階ごとに個に応じた授業を行っている。

情報技術科目は学生に一定の情報技術手段を身に付けさせるため、3単位を修得しなければならない。コンピューター基礎科目とコンピューター応用が含まれている。全国コンピューター資格試験の合格者は一部の定められたカリキュラムの修得を免除される。コンピューター基礎科目は教学内容と方法の改善に向け、現代化教育手段を率先的に利用し、ネット上での教学の実施を模索しなければならない。学校で定められたコンピューター利用時間帯以外に、各専攻はコンピューター操作の機会を学生に与えなければならない。

5. 人文社会科学科目（文系6、理系4）

人文社会科学科目は全校の選択科目で、人類社会と個人行為の経験性知識及び人類個人と社会行為の科学的な探求方法を身に付けさせる目的で行われる。

文系の学生は自専攻以外の2種類の学科領域（言語学、文学、芸術、歴史学、哲学、社会学、心理学、教育学、法学、政治学、経済学、経営学など）の中で少なくとも6単位を選択し、修得しなければならない。理系の学生は自専攻以外の2種類学科領域の中で少なくとも4単位を修得しなければならない。各専攻は各自の特徴に基づき、人文社会科学通選科目の達成目標を制定しなければならない。同時に基礎、総合、均衡、指導などの諸方面を含む配慮をしなければならない。

人文社会科学通選科目は1科目2-3単位が適切である。

人文社会科学通選科目は学校の教務課が各専攻と共同に研究し、開設することになっている。学校は各専攻が領域ごとに2つ以上の基礎科目を通選科目として設置することを求めると同時に教学計画の中に明示することを決めている。また、各専攻の領域ごとに少なくとも1つの各専攻に関わる学科紹介、研究と発展方向などを内容とした学科案内科目を設置することを求めている。

6. 自然科学科目（文系4、理系6）

自然科学科目は全校の選択科目である。学生に科学の基本術語、概念、理論と方法を理解させ、科学仮説の能力及び科学発展が社会と環境に与える影響を認識させることを目的としている。

文系の学生は自専攻以外の2種類の自然科学領域（物理、化学、生物、環境、天文、地理、情報科学、数学など）の中で少なくとも4単位を選択し、修得しなければならない。理系の学生は自専攻以外の2種類自然科学領域の中で少なくとも6単位を修得しなければならない。各専攻は各自の特徴に基づき、自然科学通選科目の達成目標を制定しなければならない。人文社会科学科目と同様に基礎、総合、均衡、指導など諸方面を含む配慮をしなければならない。

自然科学通選科目は1科目2-3単位が適切で、数学、物理、化学、生物などの比較的に大きい分野向けの科目設置時は分類、段階ごとに個に応じた授業を行うことを配慮しなければならない。

自然科学通選科目は学校の教務課が各専攻と共同に研究し、開設することになっている。学校は各専攻が領域ごとに2つ以上の基礎科目を通選科目として設置することを求める同時に教学計画の中に明示することを決め付けている。また、各専攻の領域ごとに少なくとも1つの各専攻に関わる学科紹介、研究と発展方向などを内容とした学科案内科目を設置することを求めている。

（二）専門教育科目

専門教育は本科教育の中心となる構成部分で、すべての学生は学位を修得するために必ず自分の専門を修得しなければならない。専門教育は専門基礎科目、専門中核科目、専門シリーズ科目、専門実習（社会実習）と卒業論文（卒業設計）四つの部分に構成されている。その中で専門基礎科目、専門中核科目、専門実習と卒業論文（卒業設計）は必修科目であり、専門シリーズ科目は選択科目である。

専門教育科目の総単位は75-85単位であり、その中で必修科目が2/3（50-57）単位を占め、選択科目は1/3（25-28）単位占めている。

1. 専門基礎科目

専門基礎科目は学部の必修科目であり、専門基礎科目と共通教育科目は学生に専門知識を修得させるための基礎科目である。

専門基礎科目は二つの方面を含めている。一つは本研究科範囲をこえて開設された専門基礎科目であり、もう一つは本研究科範囲内で開設された専門基礎科目である。本校は同一の学科内の各領域で学科レベルの専門基礎科目を設置し、基礎を定め、専門性を広げていくことを提唱している。

2. 専門中核科目

専門中核科目は各専門の方向性と特色を表すカリキュラムであり、各専門の中心科目、必修科目である。専門核心科目はカリキュラム内容の簡素化とカリキュラム規格の小規模化（授業時間と単位）の求めに応じなければならない。

3. 専門シリーズ科目

専門シリーズ科目は大学院レベルあるいは各専攻、各領域の学生の限定的な選択科目である。

専門シリーズ科目は各カリキュラムの体系化、カリキュラムの簡素化を重視し、重複を避け、カリキュラム間の論理的構成を重視する。また、各カリキュラムの授業時間と単位を簡素化し、カリキュラム規格の小規模化を実現する。

4. 専門実習（社会実習）と卒業論文（卒業設計）（10単位）

専門実習（社会実習）と卒業論文（卒業設計）は学生の実践的能力と総合的に知識を運用する能力を高めるために設置されたカリキュラムである。専門実習と卒業論文は必修科目で、専門実習は6単位以上、卒業論文は4単位以上取らなければならない。

（三）教員資格教育科目（25単位前後）

教員資格教育科目は本校の実際に立脚点を置き、研究型・総合的な師範大学のメリットを十分に発揮させ、教員を目指す学生のために設置されたカリキュラムである。また基礎教育に貢献する本校の特色と開放式教員養成理念を表すカリキュラムである。

教員資格教育カリキュラムは基礎教育の実際に基づき、理論と実践の結び付き、教員としての専門性の向上を配慮して設置されなければならない。カリキュラムは教育理論類科目、教育技能類科目と教育実践類科目などで構成されている。各科目には最低の単位修得が求められている。その中で教育実習は6単位以上、科目教学論方面のカリキュラムは3科目以上、単位は6単位以上、現代教育技術方面のカリキュラムは3単位以上を取らなければならない。

教員資格教育カリキュラムの中で必修科目は3/4、選択科目は1/4を占めている。

教育実習単位は非師範専攻の専門実習単位の代わりにはなるが、非師範専攻の専門実習単位は教員資格教育カリキュラムの教育実習単位の代わりにはならない。

教員資格教育カリキュラムは学生に25単位に相当する科目を選択するように要求している。

教員資格教育カリキュラムの全単位を修得した者に対して学校側は「教員資格教育証書」を発行する。

（四）自由選択科目

自由選択科目は学生の専門知識に対する深めと広げ、学生の特技の発揮、就業競争力を向上させるために設置された自由選択カリキュラムである。学生は自分の興味、職業希望などに基づいて自由選択することができる。自由選択の範囲は以下の3つである。

1. 「深める」型カリキュラム

「深める」型カリキュラムは学生が自分の専門知識の学習を深めるために本学部あるい

は自専攻で選択した難度がある本科カリキュラムと修士課程カリキュラムである。

2. 「広げる」型カリキュラム

「広げる」型カリキュラムは学生が自専攻のカリキュラムを学ぶ同時に、自分の専門知識の幅を広げるために、本人の興味に基づいて自由選択できる他の学部あるいは専攻のカリキュラムである。学生が他の学部、専攻でカリキュラムを選択するのを奨励するために、学校は副専攻と第二学位カリキュラムを設置して、他の学部、専攻で選択した科目の単位修得が規定の要求に達していた者に「副専攻証書」或は「第二学位証書」を発行している。副専攻と第二学位専攻で選択した科目の単位が規定の要求に達していない場合、修得した単位は自由選択科目の単位として認めている。

学校は本科専攻を設置する同時に副専攻と第二学位専攻を設置する必要がある。教員資格教育カリキュラムは独自のカリキュラム計画を立てるが、副専攻と第二学位専攻は独自のカリキュラム計画を立てる必要はなく、自専攻のカリキュラム計画を立てる際、自専攻に合つての副専攻と第二学位専攻のカリキュラム計画を加え、また最低の単位修得の基準を定める。副専攻カリキュラムは自専攻カリキュラム計画中の専門必修科目であり、第二学位カリキュラムは自専攻カリキュラム計画中の専門実習と卒業論文（卒業設計）以外のすべての専門必修科目と部分的な専門シリーズ科目である。

学生は自専攻と異なる一級学科の専攻を副専攻として選択しなければならないし、自専攻と異なる学科分類の学科専攻を第二学位修得の専攻として選択しなければならない。

副専攻カリキュラムの単位修得の基準は 30-35 単位であり、第二学位専攻カリキュラム単位修得の基準は 50 単位くらいである。

3. 「研究」型カリキュラム

学生の総合的な素質の向上、創造的な研究活動に参加することに対する奨励、学生の「創新意識」と「创新能力」の育成、特に本科学生が早いうちに研究活動に参加できることを奨励する目的で、学校は独立学習と研究型カリキュラムを設置している。学生は指導教官の研究課題或は授業外の科学技術活動の自由的な参加で獲得した成果によって幾つかの単位が修得でき、選択科目の単位として認められる。独立学習と科学研究単位修得の確認方法は別に制定する。

表：東北師範大学本科教育指導カリキュラム表

カリキュラム類別				単位				
共通教育科目	通修科目	“両課”	思想道德	思想道德教養	1	文 13 理 11	40	50
			科目	法律基礎	1			
			マルクス主義理論科目	マルクス主義哲学原理	3			
				マルクス主義政治経済学	2			
				現代世界経済と政治	2 (文)			
				毛沢東思想概論	2			
				鄧小平理論 3つの代表の重要思想概論	2			
		健康体育と国防教育科目	健康体育	体育 1	4	6		
				体育 2				
			国防教育	軍隊理論	2			
				軍事訓練				
		交流と表現科目	作文	応用作文	2	14		
				専門作文				
	第一外国語		12					
	数学と情報技術科目	数学		文 4 理 6	文 7 理 9			
		情報技術		3				
	通選科目	人文社会科学科目	言語学、文学、芸術、歴史学、哲学、社会学、心理学、教育学、法学、政治学、経済学、経営学など	文 6、理 4		10		
		自然科学科目	物理、化学、生物、環境、天文、地理、情報科学、数学など	文 4、理 6				
	専門教育科目	必修科目	専門基礎科目			50 - 57		
			専門中核科目					
専門実習と卒業論文 (設計)			10					
選択科目		専門シリーズ科目			25 - 28			
教員資格教育科		教育理論類科目			選択科目は 1/4 以上であ	25		

目	教育技能類科目	るべき
	教育実践類科目	
自由選択科目		未定
卒業に必須な単位		145 - 155

四、修了単位と単位の計算方法

(一) 修了単位に関する基準

東北師範大学本科学士の卒業に必要な最低単位は145-155単位である。なお、外国語、体育、音楽、美術などの実践的な性質を持っている専攻の単位は基準を超えることができるが、多くても160単位を超えないようにする。その中ですべての学生は必ず共通教育科目で50単位位を取らなければならないし、専門教育科目で75-85単位を修得しなければならない。また教員を目指す学生は必ず教員資格教育カリキュラムで25単位を取らなければならない。

(二) 単位の計算方法

各科目の単位は通常一学期（17週以上）の毎週の授業時間と一致する。毎週1時間の理論科目の単位は1単位にし、毎週1時間の実験、練習問題、パソコン操作などの実践的な科目の単位は0.5にする。

集中的に行った実習、調査、訓練、実験、パソコン操作などは一般的に毎週1単位に計算する。

最小単位は0.5である。

五、教学と学習プロセス処理に関する意見

東北師範大学本科教育は三つの段階に分けている。（参考図） 学校と各専攻がカリキュラムを作成する際、また学生が学習プロセスを処理する際参考することができる。

(一) 基礎を固める段階（最初の一年半）

本段階は主に大学時代の学習及び生涯学習に必要な基本的素質と技能の育成、学生が幾つかの専門に触れられることを目的としている。そのため、本段階は基礎を固める重要な段階で、共通教育科目と少量の専門基礎科目を設置している。本段階の学習が終わった後、学生は専攻を選択することができる。

(二) 学習を深める段階（次の一年半）

本段階はある専攻、領域の学習を深める段階である。そのため、本段階の中心は専門教育カリキュラムであり、同時に第二学年で専門基礎教育学習を終えた後、専門学習を深めながら、同時に部分的な教員資格教育カリキュラムと自由選択科目の学習をするようになっている。そのほか、専門基礎科目を学習した後、部分的な学生はまた専攻を選択する機

会がある。

(三) 集大成になる段階（最後の一年）

本段階は全本科教育の集大成段階であり、個性と特色を表す段階である。そのため、専門実習と卒業論文などは本段階の中心内容である。そのほか、ほとんどの教員資格教育科目と自由選択科目は主に本段階で展開されている。

図：東北師範大学本科教育カリキュラム進行モデル

学期 1	学期 2	学期 3	学期 4	学期 5	学期 6	学期 7	学期 8
共通教育科目				専門教育科目		教員資格教育科目 自由選択科目	

東北師範大学教務課

2003年 11月 10日

東北師範大学教員資格教育カリキュラム表

カリキュラム類別		授業コード	授業科目	単位	授業時期	注	
教育理論科目	一般教育理論科目	EDU601	教師学と教学論	2	春	必修 4単位	
		EDU602	学校教育心理学	2	秋		
		EDU603	青少年心理学	2	秋	最低 選択 2単位	
		EDU604	教育社会学課題	1	春		
		EDU605	教育哲学課題	1	秋		
		EDU606	教育管理心理学課題	1	春		
		EDU607	教育経済学課題	1	秋		
		EDU608	教育政策と法規課題	1	春		
		EDU609	中国教育史課題	1	秋		
		EDU610	外国教育史課題	1	春		
		EDU611	比較教育課題	2	春		
	教科教育理論科目	国語教育	LIT601	国語カリキュラムと教学論	2	春	専攻 と相 対或 いは 専攻 と接 近す る領 域で の教 育理 論科 目か ら4 単位 必修
			LIT602	作文教学論	2	秋	
		歴史教育	HIS601	歴史カリキュラムと教学論	2	春	
			HIS602	基礎教育カリキュラム標準解釈	1	春	
			HIS603	中学校歴史教学での理論問題	1	秋	
		思想政治 教育	POL601	中学校思想政治科目教学論	2	秋	
			POL602	思想政治科目カリキュラム標準 及び教科書研究	2	秋	
		数学教育	MAT601	中学校数学カリキュラムと教学 論	2	秋	
			MAT602	数学教育評価	1	秋	
			MAT603	数学比較教育学	1	春	
物理教育	PHS601	物理カリキュラムと教学論	2	春			
	PHS602	中学校物理実験教学論	2	春			
化学教育	CHE601	化学カリキュラムと教学論	2	春			
	CHE602	化学課題授業法	2	春			
生物教育	LIF601	生物学カリキュラムと教学論	2	春			
	LIF602	カリキュラム標準解釈と分析	2	秋			
地理教育	URB601	地理カリキュラムと教学論	2	春			

目		URB602	基礎教育新カリキュラム標準解釈	2	秋		
	技術教育 (情報技術)	COM601	パソコンカリキュラムと教学論	2	春		
		MED601	情報技術カリキュラムと教学論	3	秋		
		COM602	技術教育カリキュラム標準(情報技術)	1	春		
	技術教育	PHS603	技術カリキュラムと教学論	2	春		
		PHS604	技術カリキュラム標準解釈	2	春		
	英語教育	FOR601	英語カリキュラムと教学論	2	春		
		FOR602	基礎教育カリキュラム標準解釈	2	秋		
	ロシア語教育	FOR603	ロシア語カリキュラムと教学論	2	春		
		FOR604	基礎教育カリキュラム標準解釈	2	秋		
	日本語教育	FOR605	日本語カリキュラムと教学論	2	春		
		FOR606	基礎教育カリキュラム標準解釈	2	秋		
	音楽教育	MUS601	音楽カリキュラムと教学論	2	春		
		MUS602	音楽カリキュラム標準解釈	2	春		
	美術教育	ART601	美術カリキュラムと教学論	2	春		
		ART602	新カリキュラム標準解釈	2	秋		
	体育	PHE601	体育カリキュラムと教学論	2	秋		
		PHE602	中学校体育カリキュラム新標準解釈	2			
	教育 技 術	一般教育 技能 科目	EDU612	教育研究方法	1	春	必修 2単位 最低 選択 1単位
			MED602	現代教育技術	1	春、 秋	
EDU613			授業設計方法	1	秋		
EDU614			学校心理カウンセラー	1	春		
EDU615			教師職業技能訓練	1	春、 秋		
教科 教育 技能		国語教育	LIT603	中学校国語教師技能マイクロ訓練	1	秋	専攻 と相 対或 いは 専攻 と接 近す
			LIT604	国語教科書研究	2	春	
			LIT605	国語授業技能訓練	2	春	
		歴史教育	HIS604	インターネット実用技術	2	春	
			HIS605	メディアプログラム制作	2	秋	
			HIS606	マイクロ教学	1	秋	
思想政治		POL603	思想政治科目授業設計	1	秋		

能 類 科 目	教育	POL604	思想政治科目教学マイクロ訓練	1	秋	る領域で 選択し、 最低5単 位修得
		POL605	思想政治科目研究方法	1	秋	
		POL606	思想政治科目授業中での現代教育技術応用	2	秋	
	数学教育	MAT604	マイクロ数学	2	春	
		MAT605	数学教育研究方法	1	春	
	物理教育	PHS605	中学校物理授業技能マイクロ訓練	1	春	
		PHS606	物理授業中での現代教育技術の応用	2	秋秋	
		PHS607	物理教育研究方法	1	秋	
		PHS610	基礎教育新カリキュラム標準解 釈	2	秋	
	化学教育	CHE603	化学授業設計	1	秋	
		CHE604	マイクロ教学	1	秋	
		CHE605	中学校化学実験研究	2	秋	
		CHE606	化学授業中での現代教育技術の 応用	2	秋	
		CHE607	化学教育研究方法	1	春	
	生物教育	LIF603	生物授業中での現代教育技術の 応用	2	春	
		LIF604	中学校生物実験技能	2	春	
		LIF605	中学校生物授業設計	1	春	
		LIF606	生物カリキュラム資源開発と利 用	1	秋	
		LIF607	生物教育研究法	1	秋	
		LIF608	マイクロ教学	1	秋	
	地理教育	URB603	地理授業設計	2	春	
		URB604	地理カリキュラム授業技能ミク ロ訓練	1	秋	
		URB605	地理授業中での現代教育技術の 応用	2	秋	
		URB606	地理教育研究方法	1	春	
		URB607	中学校地理授業改革課題研究	1	春	
	技術教育 (情報技 術)	COM603	パソコン補助授業	2	秋	
		COM604	パソコン授業設計と研究	2	秋	
		COM605	プログラム設計技術	2	春	

		MED607	インターネットカリキュラム設計と制作	3+1	秋
		MED608	メディアカリキュラム制作技術	2	秋
		MED609	情報技術とカリキュラム整合	2	春
		MED610	授業システム設計	3	秋
	技術教育	PHS611	技術授業設計	2	春
		PHS612	技術教育研究方法	1	秋
		PHS613	ミクロ教学	1	春
		PHS614	技術実験設計	2	秋
	英語教育	FOR607	英語授業設計と技能訓練	2	春
		FOR608	中学校英語教科書分析	1	秋
		FOR609	現代教育技術応用	2	春
		FOR610	中学校英語授業研究方法	1	秋
	ロシア語教育	FOR611	ロシア語授業設計と技能訓練	2	春
		FOR612	中学校ロシア語教科書分析	1	秋
		FOR613	現代教育技術応用	2	春
		FOR614	中学校ロシア語授業研究方法	1	秋
	日本語教育	FOR615	日本語授業設計と技能訓練	2	春
		FOR616	中学校日本語教科書分析	1	秋
		FOR617	現代教育技術応用	2	春
		FOR618	中学校日本語授業研究方法	1	秋
	音楽教育	MUS603	音楽授業設計	2	春
		MUS604	舞踏授業法	3	秋
		MUS605	中国民間舞踏授業法	2	秋
		MUS606	ミクロ教学	3	春
		MUS607	現代教育技術応用	2	秋
		MUS608	音楽教育研究方法	1	秋
	美術教育	ART603	美術授業技能ミクロ訓練	2	春
		ART604	美術授業中での現代教育技術応用	2	秋
		ART605	美術授業設計	2	春
		ART606	中学校美術授業評価	1	春
	体育	PHE603	ミクロ教学	2	春
		PHE604	体育製図	1	秋
		PHE605	体育授業中での現代教育技術応用	1	秋

教育実践類科目	教育実習	PHE606	中学校体育教科書授業法	2	春	専攻と相対或いは専攻と接近する領域での教育実習で6単位修得			
		LIT606	国語教育実習	6	秋				
		HIS607	歴史教育実習	6	秋				
		POL607	思想政治教育実習	6	秋				
		MAT607	数学教育教育実習	6	秋				
		PHS615	物理教育実習	6	秋				
		CHE608	化学教育実習	6	秋				
		LIF609	生物教育実習	6	秋				
		URB608	地理教育実習	6	秋				
		COM606/ MED611	技術教育実習（情報技術）	6	秋				
		PHS616	技術教育実習	6	秋				
		FOR619	英語教育実習	6	秋				
		FOR620	日本語教育実習	6	秋				
		FOR621	ロシア語教育実習	6	秋				
		MUS609	音楽教育実習	6	秋				
		ART607	美術教育実習	6	秋				
		PHE607	体育教育実習	6	秋				
		学校参観／教育調査	国語教育	LIT607	学校参観		1	適宜	専攻と相対或いは専攻と接近する領域から選択し、最低1単位修得
				LIT608	教育調査		1	適宜	
			歴史教育	HIS608	学校参観		1	適宜	
HIS609	教育調査			1	適宜				
思想政治教育	POL608		学校参観	1	適宜				
	POL609		教育調査	1	適宜				
数学教育	MAT608		学校参観	1	適宜				
	MAT609		教育調査	1	適宜				
物理教育	PHS617		学校参観	1	適宜				
	PHS618		教育調査	1	適宜				
化学教育	CHE609		学校参観	1	適宜				
	CHE610		教育調査	1	適宜				
生物教育	LIF610		学校参観	1	適宜				
	LIF611		教育調査	1	適宜				
地理教育	URB609		学校参観	1	適宜				
	URB610		教育調査	1	適宜				
技術教育（情報技	COM607/ MED612		学校参観	1	適宜				

術)	COM608/ MED613	教育調査	1	適宜
技術教育	PHS619	学校参観	1	適宜
	PHS620	教育調査	1	適宜
英語教育	FOR622	学校参観	1	適宜
	FOR623	教育調査	1	適宜
ロシア語 教育	FOR624	学校参観	1	適宜
	FOR625	教育調査	1	適宜
日本語教 育	FOR626	学校参観	1	適宜
	FOR627	教育調査	1	適宜
音楽教育	MUS610	学校参観	1	適宜
	MUS611	教育調査	1	適宜
美術教育	ART608	学校参観	1	適宜
	ART609	教育調査	1	適宜
体育	PHE608	学校参観	1	適宜
	PHE609	教育調査	1	適宜